

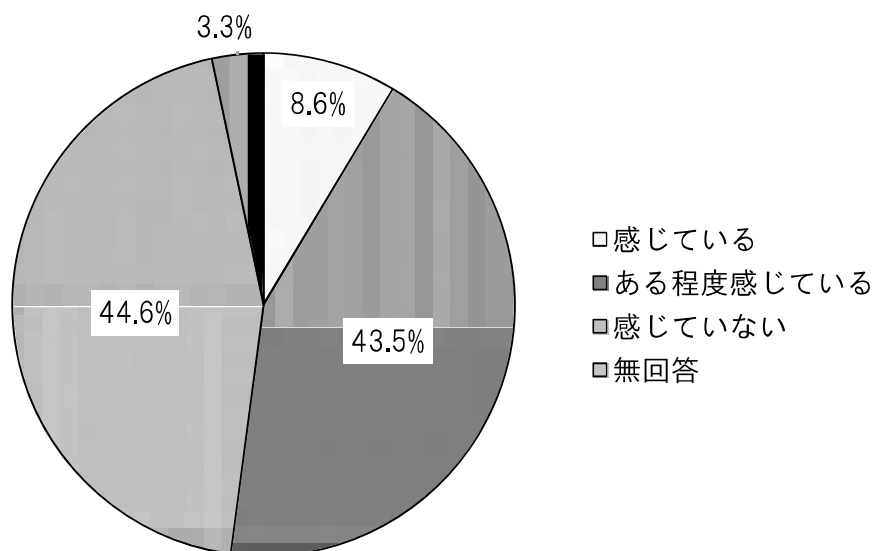
第 2 章

調査結果

1 「人権尊重のまち」に対する実感

【問1】 名張市は1991年3月に「人権尊重都市宣言」を行いました。あなたは名張市が「人権尊重のまち」になっていると感じていますか。

図1 「人権尊重のまち」に対する実感



1991年3月に施行された、「人権尊重都市宣言」について、「人権尊重のまち」として実感しているかどうかで、最も割合が高かったのは「感じていない」で44.6%、次いで「ある程度感じている」で43.5%となっています。一方、「感じている」の割合は8.6%と全体の1割に満たない結果となっており、多くの市民が「人権尊重のまち」として、実感できていない結果となっています。

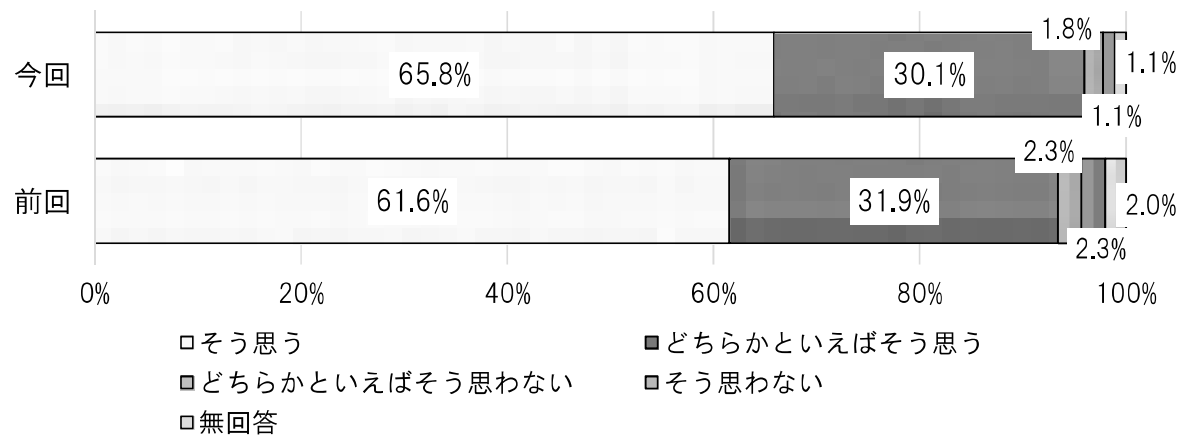
性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「感じている」と「ある程度感じている」を合わせて、最も割合が高かったのは「80歳以上」で62.7%となっています。最も割合が低かったのは「40歳代」で21.4ポイントの差があります。「感じていない」で最も割合が高かったのは「40歳代」で58.7%となっています。

2 人権や差別についての考え方

【問2】 以下のような人権や差別をめぐる考え方について、あなたはどのようにお考えですか。

図2 A. 差別は人として最も恥ずべき行為の一つだ



前回調査との比較では、大きな変化は見られません。

性別では、大きな差は見られません。

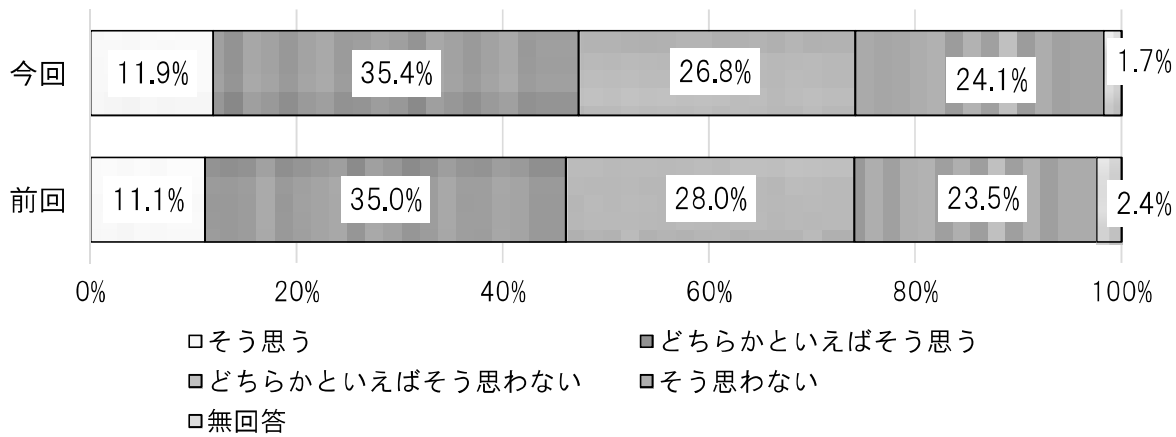
年齢では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「60歳代」で 98.7%となっています。最も割合が低かったのは「80歳以上」で 6.6 ポイントの差があります。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「40歳代」で 5.5%となっています。

This horizontal stacked bar chart compares responses to the question 'Do you think it is better to have a large number of people?' for two time periods: '今回' (This time) and '前回' (Last time). The x-axis represents the percentage of respondents, ranging from 0% to 100% in 20% increments. The legend identifies five response categories: 'そう思う' (I think so) in light gray, 'どちらかといえばそう思う' (I think so, somewhat) in medium gray, 'どちらかといえばそう思わない' (I don't think so, somewhat) in dark gray, 'そう思わない' (I don't think so) in light gray with a black border, and '無回答' (No answer) in black.

時期	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	無回答
今回	32.5%	44.0%	14.4%	6.9%	2.0%
前回	33.6%	41.5%	15.9%	6.4%	2.6%

性別では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、「男性」で 74.1%、「女性」で 79.2%と、5.1 ポイントの差があります。

年齢では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「50歳代」で81.9%となっています。最も割合が低かったのは「80歳以上」で12.9ポイントの差があります。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「80歳以上」で24.6%となっています。

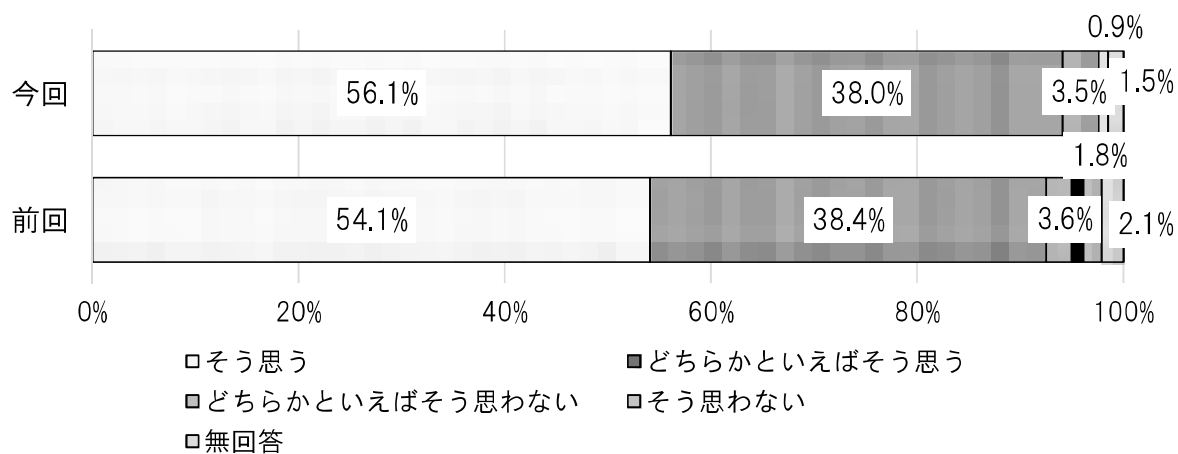


前回調査との比較では、大きな変化は見られません。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「50 歳代」で 65.5%となっています。最も割合が低かったのは「20 歳代」で 23.9 ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「20 歳代」で 58.4%となっています。

図5 D. 差別を受ける立場の人の言葉をきちんと聞くべきだ



前回調査との比較では、大きな変化は見られません。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「40歳代」で100.0%となっています。最も割合が低かったのは「80歳以上」で13.5ポイントの差があります。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「80歳以上」で9.5%となっています。

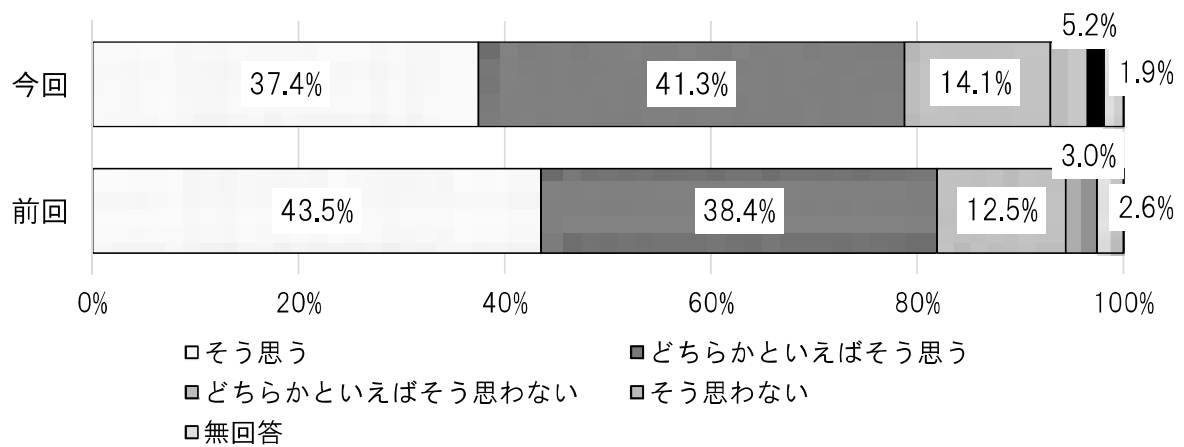
This horizontal stacked bar chart compares responses to the question 'Do you think it is better to have a large number of people in the same place?' for two time periods: '今回' (This time) and '前回' (Last time). The x-axis represents the percentage of respondents, ranging from 0% to 100% in 20% increments. The legend identifies five response categories: '□ 思う' (Think so), '■ どちらかといえば思う' (Tend to think so), '□ どちらかといえば思わない' (Tend not to think so), '□ 思わない' (Do not think so), and '□ 無回答' (No answer).

時期	思う	どちらかといえば思う	どちらかといえば思わない	思わない	無回答
今回	48.8%	41.5%	5.0%	3.1%	1.6%
前回	46.7%	41.4%	6.5%	3.4%	2.0%

性別では、大きな差は見られません。

13

図7 F. 人権や権利ばかり主張して、他人の迷惑を考えない人が増えている

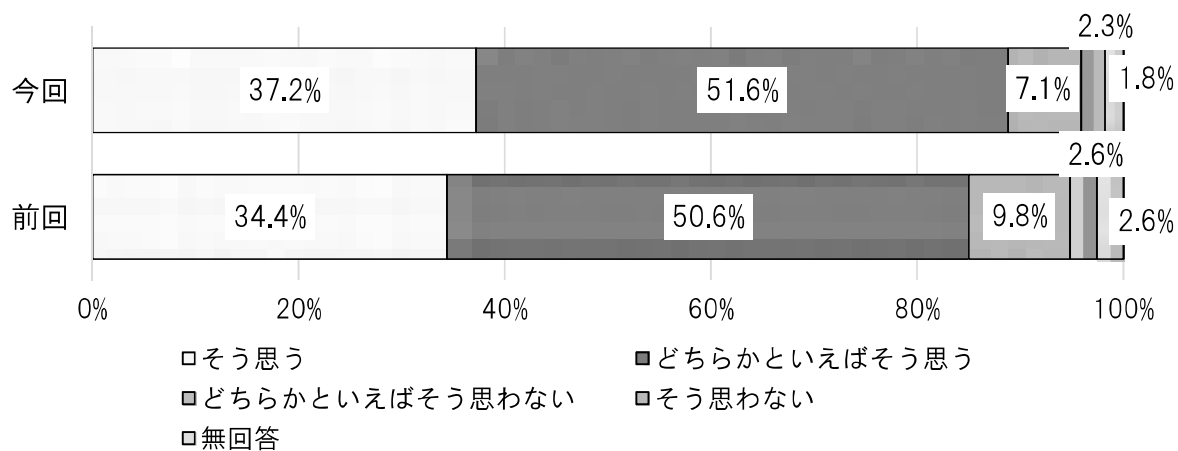


前回調査との比較では、「そう思う」で6.1ポイント低くなっています。

性別では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると、「男性」で22.3%、「女性」で17.1%と、5.2ポイントの差があります。

年齢では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「20歳代」で25.0%となっています。最も割合が低かったのは「60歳代」で8.9ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「50歳代」で83.6%となっています。

図8 G. 誰もが自分の人権についてもっと学ぶ機会を持つべきだ

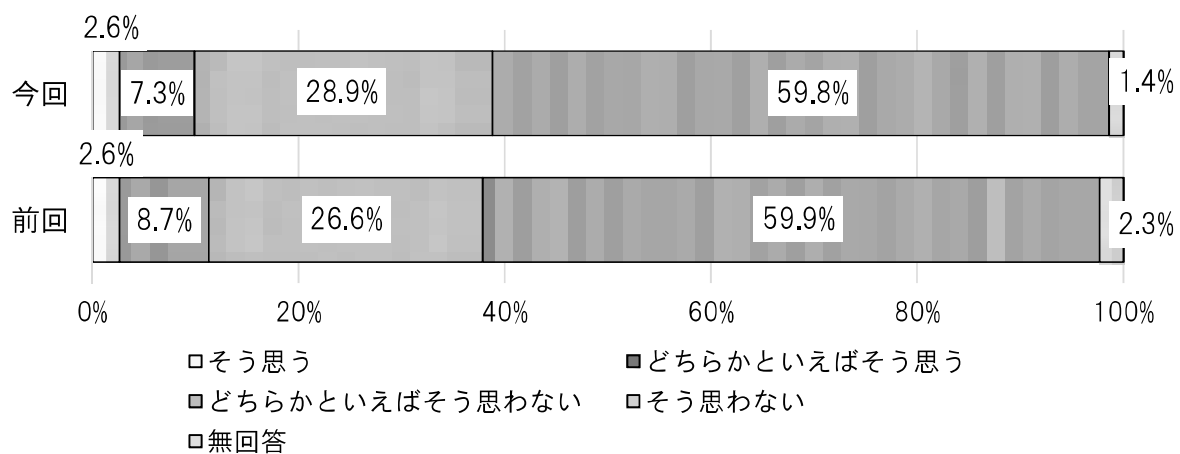


前回調査との比較では、大きな変化は見られません。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「40 歳代」で 93.6%となっています。最も割合が低かったのは「30 歳代」と「80 歳以上」で 11.1 ポイントの差があります。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「30 歳代」で 14.1%となっています。

図9 H. 人権問題は差別を受ける人の問題で、自分には関係のないことだ



前回調査との比較では、大きな変化は見られません。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「50 歳代」で 93.1%となっています。最も割合が低かったのは「80 歳以上」で 17.7 ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「80 歳以上」で 20.6%となっています。

Horizontal stacked bar chart showing responses to the question: "Do you think it is better to have a large number of people in the same room?" (同じような人数が多い方がいいと思いますか？) for two time periods: "This time" (今回) and "Last time" (前回).

The chart displays the percentage of respondents for five categories: "I think so" (そう思う), "I think it's better to have a large number of people in the same room" (どちらかといえばそう思う), "I don't think so" (どちらかといえばそう思わない), "I don't think" (そう思わない), and "No answer" (無回答).

Category	今回 (%)	前回 (%)
そう思う	41.9%	39.0%
どちらかといえばそう思う	35.0%	38.0%
どちらかといえばそう思わない	12.1%	11.9%
そう思わない	9.8%	9.5%
無回答	1.3%	1.6%

性別では、大きな差は見られません。

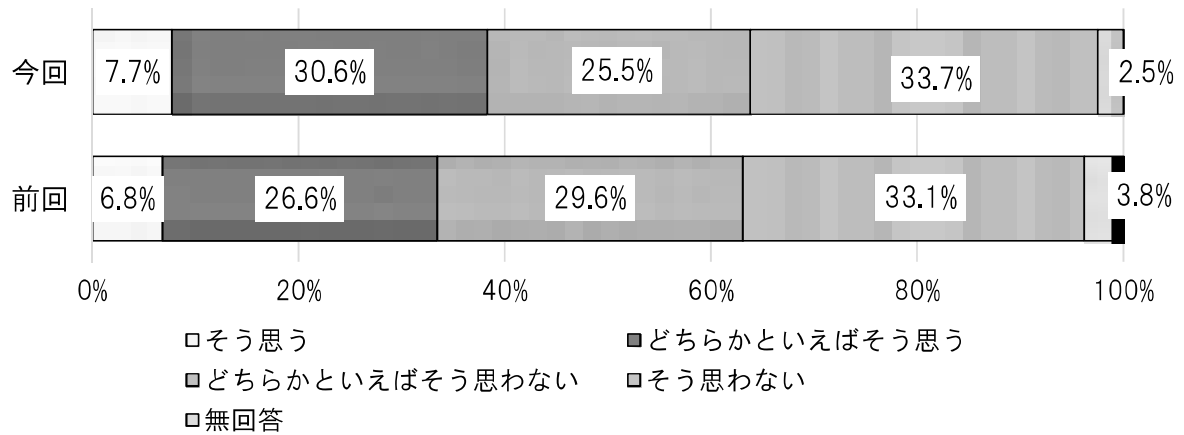
生育歴¹では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると、「名張市内」で25.5%、「名張市外」で19.8%と、5.7ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、「名張市内」で73.6%、「名張市外」で79.0%と、5.4ポイントの差があります。

17

3 人権問題についての意見

【問3】 人権に関する問題をめぐってさまざまな意見がありますが、以下のような意見について、あなたはどのようにお考えですか。

図11 A. 部落差別はいけないことだが、私とは関係のない話だ

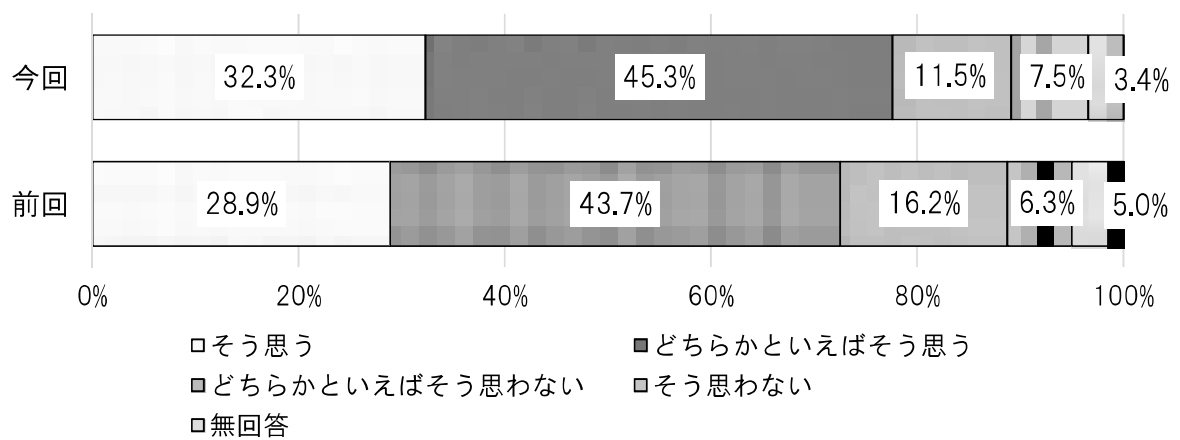


前回調査との比較では、大きな変化は見られません。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「50 歳代」と「70 歳代」で 66.4%となっています。最も割合が低かったのは「40 歳代」で 16.0 ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「40 歳代」で 48.6%となっています。

図1 2 B. 部落差別を許さない態度を身に付けることは、他の人権問題の解決にもプラスになる

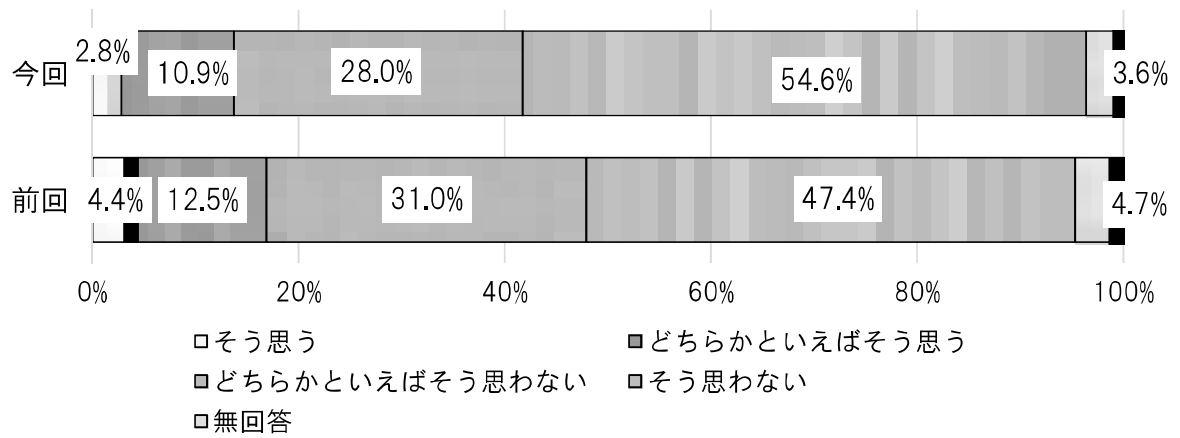


前回調査との比較では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると 5.0 ポイント高くなっています。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「50 歳代」で 88.8%となっています。最も割合が低かったのは「80 歳以上」で 26.1 ポイントの差があります。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「20 歳代」で 29.2%となっています。

図13 C. 同和地区（被差別部落）の人には、差別されるだけの理由がある

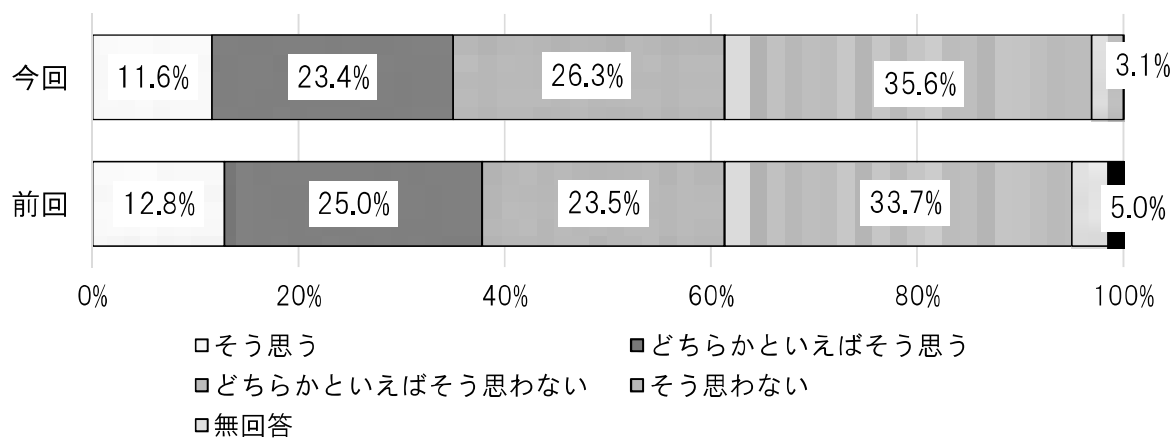


前回調査との比較では、「そう思わない」で7.2ポイント高くなっています。

性別では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、「男性」で17.3%、「女性」で11.2%と、6.1ポイントの差があります。

年齢では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「40歳代」で88.1%となっています。最も割合が低かったのは「80歳以上」で17.4ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「80歳以上」で18.3%となっています。

図14 D. そっとしておけば、部落差別はそのうち自然になくなっていく



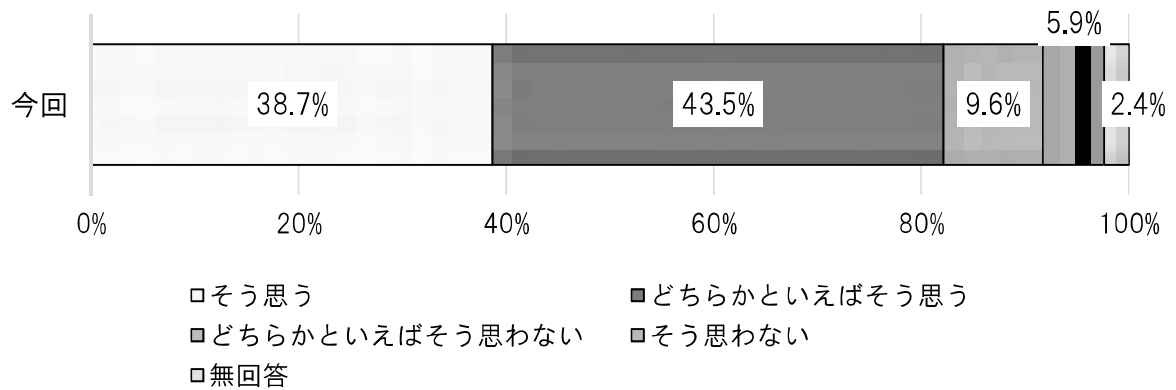
前回調査との比較では、大きな変化は見られません。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「どちらかといえば思わない」と「思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「60 歳代」で 69.8%となっています。最も割合が低かったのは「80 歳以上」で 16.7 ポイントの差があります。「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「30 歳代」で 42.1%となっています。

生育歴では、「思う」と「どちらかといえば思う」を合わせると、「名張市内」で 38.6%、「名張市外」で 33.0%と、5.6 ポイントの差があります。

図15 E. すべての公共施設をバリアフリー化すべきだ

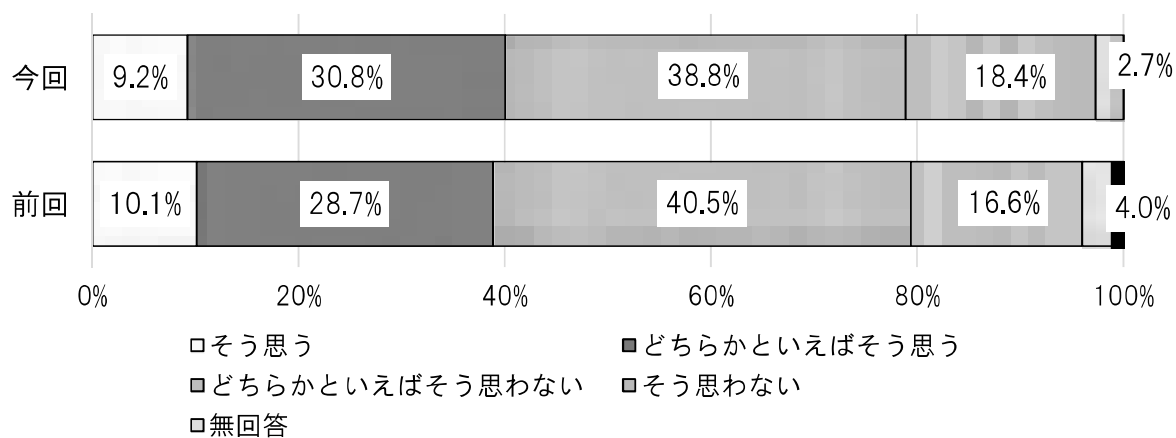


「E. すべての公共施設をバリアフリー化すべきだ」で、最も割合が高かったのは「どちらかといえばそう思う」で43.5%、次いで「そう思う」で38.7%となっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると15.5%となっています。

性別では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、「男性」で78.7%、「女性」で85.1%と、6.4ポイントの差があります。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると、「男性」で19.2%、「女性」で12.9%と、6.3ポイントの差があります。

年齢では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「50歳代」で89.7%となっています。最も割合が低かったのは「80歳以上」で19.1ポイントの差があります。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、割合が高かったのは「80歳以上」で19.8%となっています。

図 16 F. 障害者を雇用する義務を果たしていない会社には、厳しい罰則を与えるべきだ



前回調査との比較では大きな変化は見られません。

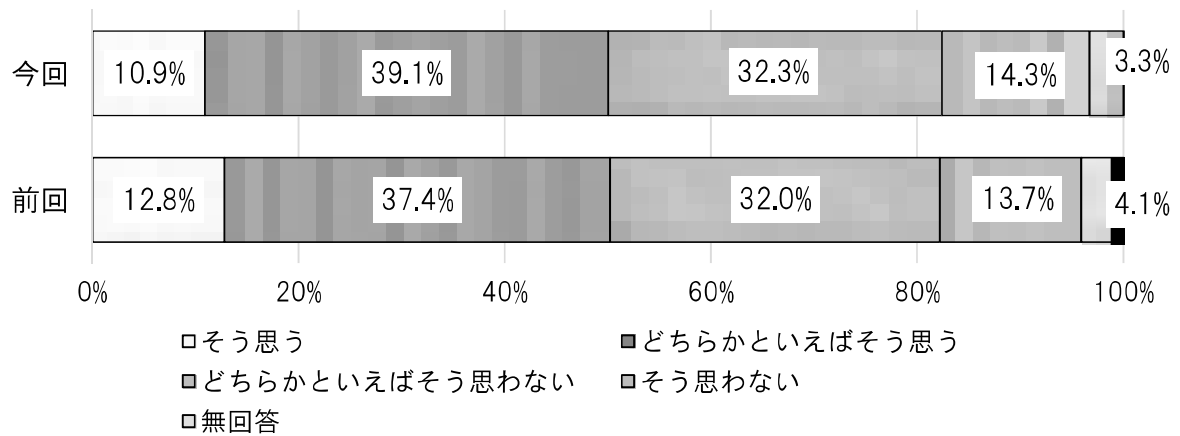
性別では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、「男性」で 45.3%、「女性」で 36.4%と、8.9 ポイントの差があります。

「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると、「男性」で 53.1%、「女性」で 60.6%と、7.5 ポイントの差があります。

年齢では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「80歳以上」で50.0%となっています。最も割合が低かったのは「20歳代」で27.0ポイントの差があります。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「20歳代」で77.1%となっています。

生育歴では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、「名張市内」で 34.0%、「名張市外」で 43.4%と、9.4 ポイントの差があります。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると、「名張市内」で 64.0%、「名張市外」で 53.6%と、10.4 ポイントの差があります。

図17 G. 外国人住民は、もっと日本の文化にとけ込む努力をするべきだ



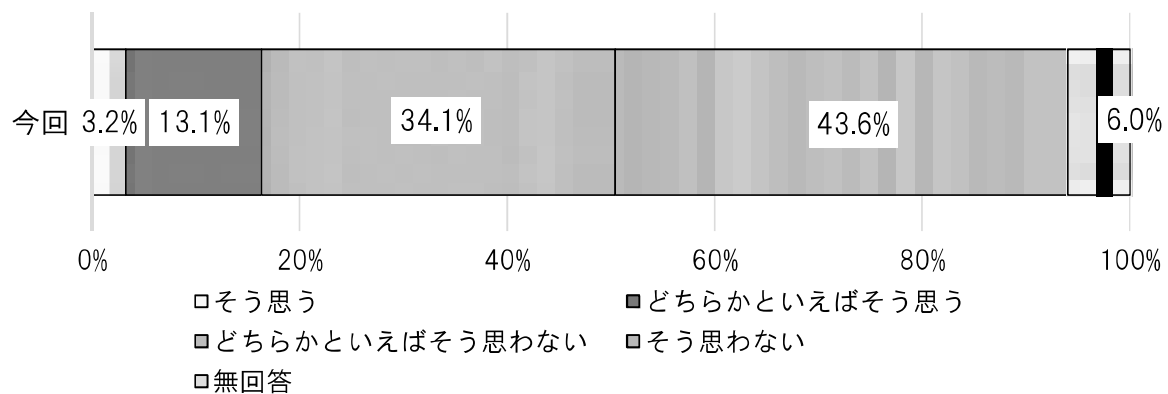
前回調査との比較では、大きな変化は見られません。

性別では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると、「男性」で 40.2%、「女性」で 52.4%と、12.2 ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、「男性」で 57.3%、「女性」で 44.3%と、13.0 ポイントの差があります。

年齢では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「30 歳代」で 64.9%となっています。最も割合が低かったのは「80 歳以上」で 37.9 ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「80 歳以上」で 61.1%となっています。

生育歴では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると、「名張市内」で 51.0%、「名張市外」で 44.4%と、6.6 ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、「名張市内」で 46.5%、「名張市外」で 52.2%と、5.7 ポイントの差があります。

図18 H. ヘイトスピーチは、表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ

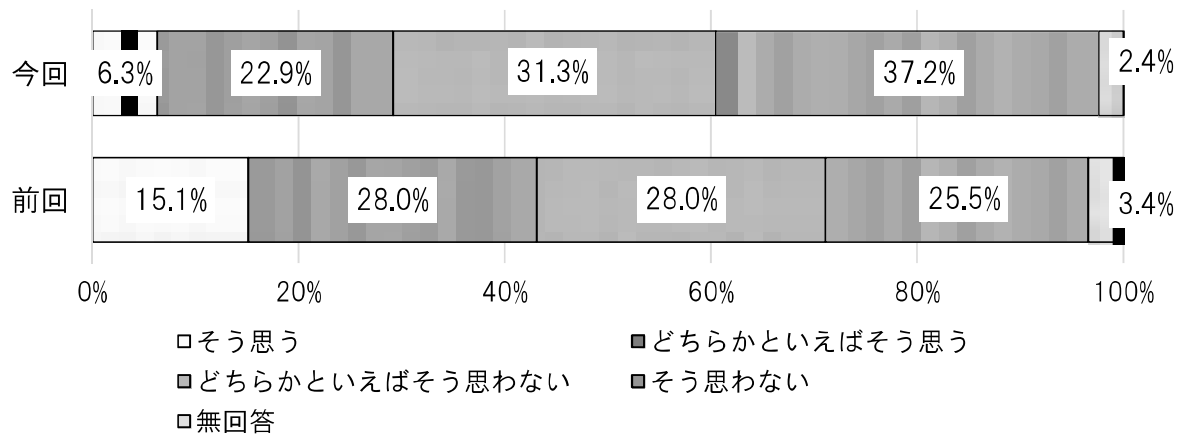


「H. ヘイトスピーチは、表現の自由の範囲内のことであり、許されることだ」で、最も割合が高かったのは「そう思わない」で43.6%、次いで「どちらかといえばそう思わない」で34.1%となっています。一方、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると16.3%となっています。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「60 歳代」で89.9%となっています。最も割合が低かったのは「80 歳以上」で27.2ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「80 歳以上」で20.7%となっています。

図19 Ⅰ. 子育て期間中は、母親が育児に専念すべきだ



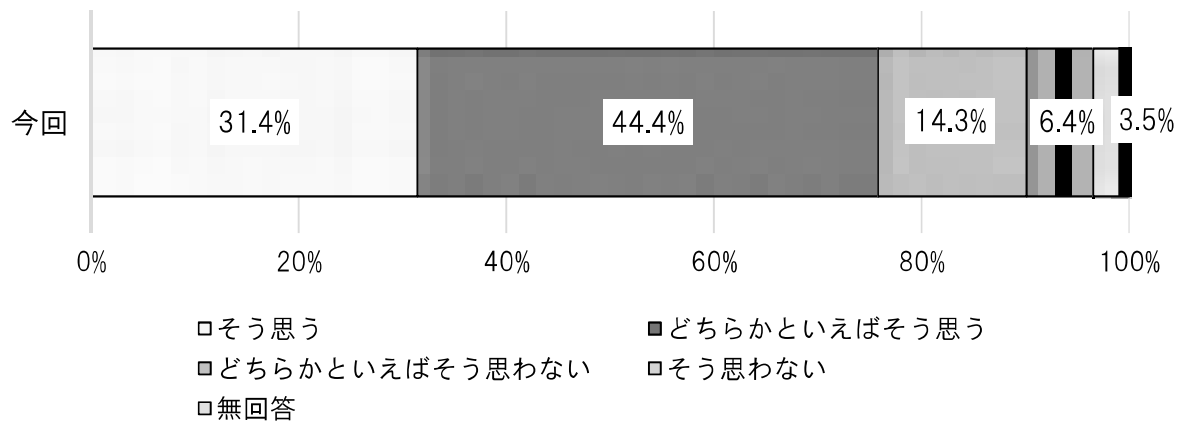
前回調査との比較では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると15.0ポイント高くなっています。一方、「そう思う」で8.8ポイント低くなっており、「どちらかといえばそう思う」で5.1ポイント低くなっています。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると13.9ポイント低くなっています。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「40歳代」で78.0%となっています。最も割合が低かったのは「80歳以上」で34.3ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「80歳以上」で48.4%となっています。

生育歴では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると、「名張市内」で73.2%、「名張市外」で65.9%と、7.3ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、「名張市内」で25.4%、「名張市外」で31.2%と、5.8ポイントの差があります。

図20 J. 友人がHIV感染者だとわかって、付き合いや接し方を変えることはない



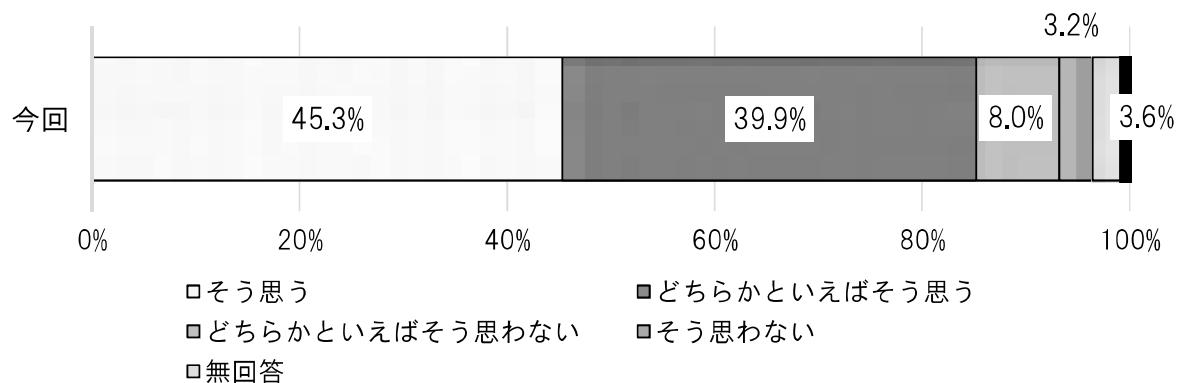
「J. 友人がHIV感染者だとわかって、付き合いや接し方を変えることはない」で、最も割合が高かったのは「どちらかといえばそう思う」で44.4%、次いで「そう思う」で31.4%となっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると20.7%となっています。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「20歳代」で89.6%となっています。最も割合が低かったのは「80歳以上」で28.5ポイントの差があります。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「80歳以上」で26.2%となっています。

生育歴では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、「名張市内」で80.1%、「名張市外」で73.6%と、6.5ポイントの差があります。

図2-1 K. もし自分の子どもが同性愛者やトランスジェンダーであっても、親として子どもの側に立ち、力になる

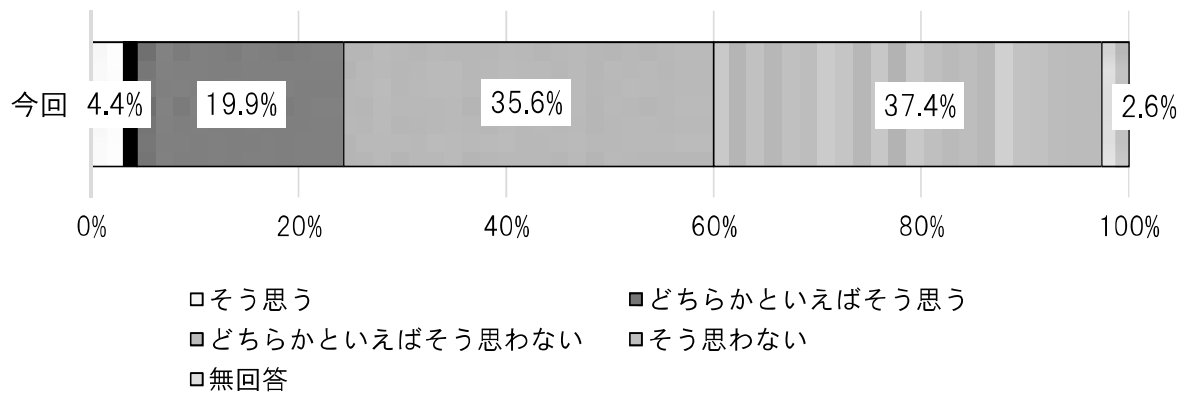


「K. もし自分の子どもが同性愛者やトランスジェンダーであっても、親として子どもの側に立ち、力になる」で、最も割合が高かったのは「そう思う」で 45.3%、次いで「どちらかといえばそう思う」で 39.9%となっています。一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると 11.2%となっています。

性別では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、「男性」で 81.6%、「女性」で 88.4%と、6.8 ポイントの差があります。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると、「男性」で 16.1%、「女性」で 7.5%と、8.6 ポイントの差があります。

年齢では、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「50 歳代」で 94.8%となっています。最も割合が低かったのは「80 歳以上」で 24.2 ポイントの差があります。「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「80 歳以上」で 16.6%となっています。

図 2 2 L. 罪を犯した人の家族が非難されるのはやむを得ない



「L. 罪を犯した人の家族が非難されるのはやむを得ない」で、最も割合が高かったのは「そう思わない」で37.4%、次いで「どちらかといえばそう思わない」で35.6%となっています。一方、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると24.3%となっています。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「60 歳代」で 81.2%となっています。最も割合が低かったのは「40 歳代」で 16.0 ポイントの差がある。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「40 歳代」で 33.0%となっています。

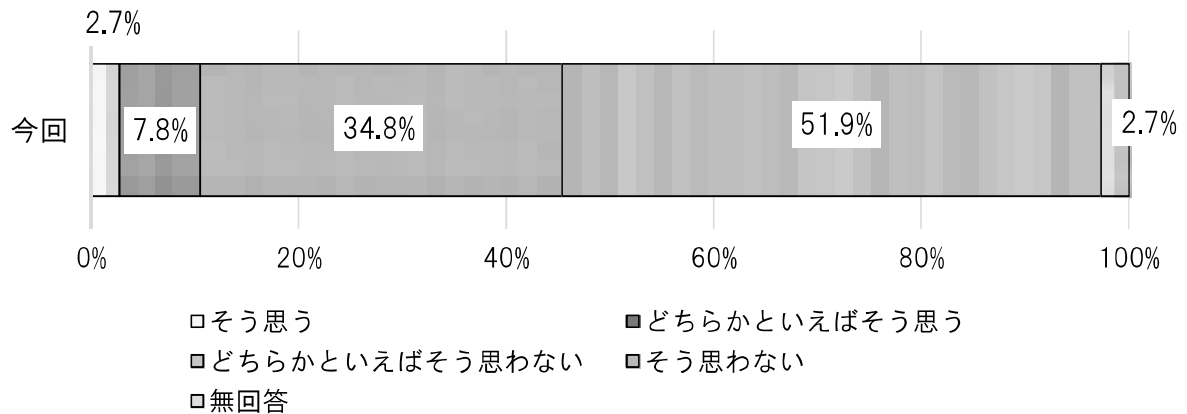
生育歴では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると、「名張市内」で 68.3%、「名張市外」で 75.7%と、7.4 ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、「名張市内」で 29.7%、「名張市外」で 21.5%と、8.2 ポイントの差があります。

Category	今回 (%)	前回 (%)
□ 思う	22.5%	29.4%
■ どちらかといえば思う	39.5%	43.1%
■ どちらかといえば思わない	23.7%	16.6%
□ 思わない	11.5%	6.8%
□ 無回答	2.8%	4.0%

性別では、大きな差は見られません。

30

図24 N. 災害時の避難所では、障害者や高齢者、外国人など支援が必要な人に配慮ができなくてもやむを得ない



「N. 災害時の避難所では、障害者や高齢者、外国人など支援が必要な人に配慮ができなくてもやむを得ない」で、最も割合が高かったのは「そう思わない」で 51.9%、次いで「どちらかといえばそう思わない」で 34.8%となっています。一方、「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせると 10.5%となっています。

性別では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると、「男性」で 83.2%、「女性」で 89.9%と、6.7 ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせると、「男性」で 14.5%、「女性」で 7.7%と、6.8 ポイントの差があります。

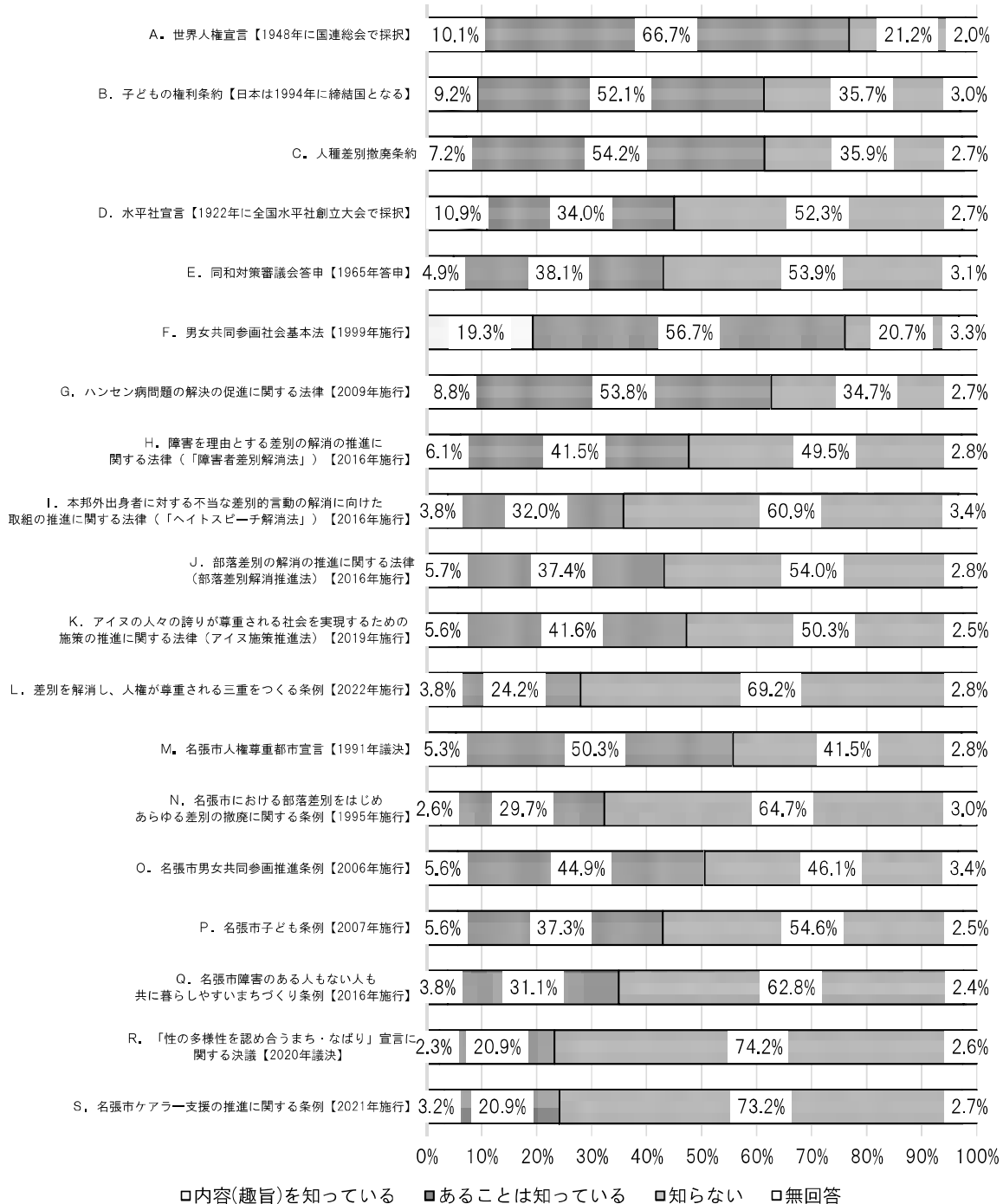
年齢では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせて、最も割合が高かったのは「60 歳代」で 92.0%となっています。最も割合が低かったのは「80 歳以上」で 11.0 ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせて、最も割合が高かったのは「20 歳代」で 12.5%となっています。

生育歴では、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせると、「名張市内」で 82.6%、「名張市外」で 88.9%と、6.3 ポイントの差があります。「そう思う」と「どちらかというと思う」を合わせると、「名張市内」で 15.0%、「名張市外」で 8.3%と、6.7 ポイントの差があります。

4 人権（法令）に関する知識

【問4】 あなたは、次のような人権に関する宣言・条約・法律・条例などをご存じですか。

図25 人権に関する宣言や法律

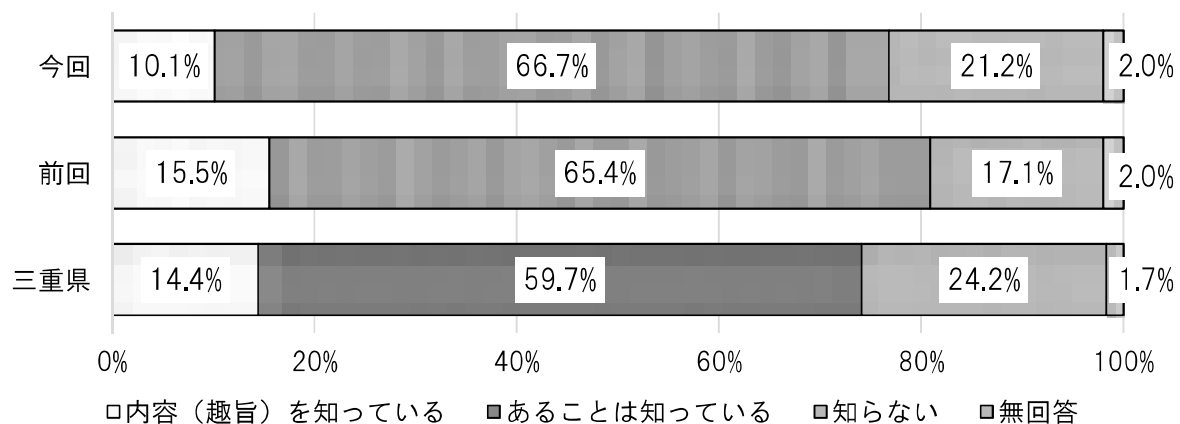


A～Sについて、「内容（趣旨）を知っている」で最も割合が高かったのは「F．男女共同参画社会基本法【1999 年施行】」で 19.3%、次いで「D．水平社宣言【1922 年に全国水平社創立大会で採択】」で 10.9%、次いで「A．世界人権宣言【1948 年に国連総会で採択】」で 10.1%となっています。

「あることは知っている」で最も割合が高かったのは「A．世界人権宣言【1948 年に国連総会で採択】」で 66.7%、次いで「F．男女共同参画社会基本法【1999 年施行】」で 56.7%、次いで「C．人種差別撤廃条約」で 54.2%となっています。

「知らない」で最も割合が高かったのは「R．「性の多様性を認め合うまち・なばり」宣言に関する決議【2020 年議決】」で 74.2%、次いで「S．名張市ケアラー支援の推進に関する条例【2021 年施行】」で 73.2%、次いで「L．差別を解消し、人権が尊重される三重をつくる条例【2022 年施行】」で 69.2%となっています。

図26 A. 世界人権宣言



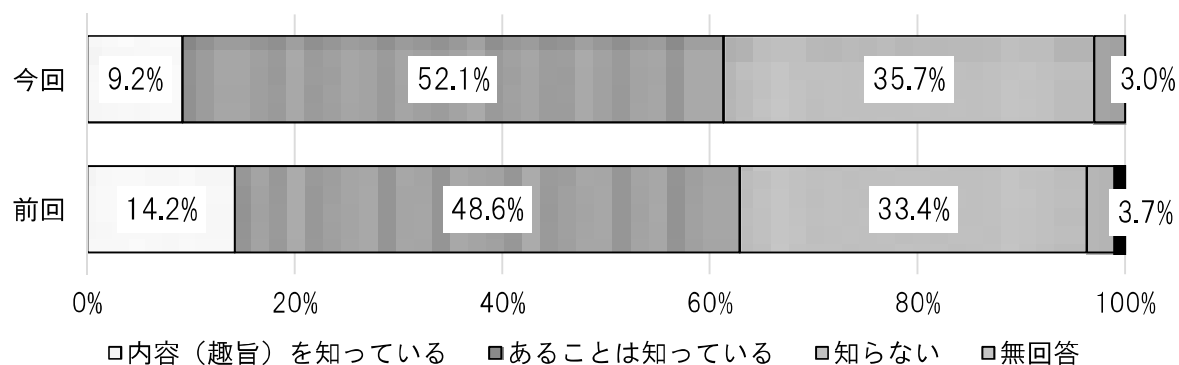
前回調査との比較では、「内容（趣旨）を知っている」で5.4ポイント低くなっています。

「2022 年度人権問題に関する三重県民意識調査（以下「三重県」という）」との比較では、「あることは知っている」で7.0ポイントの差があります。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「60 歳代」で83.2%となっています。最も割合が低かったのは「80 歳以上」で16.6ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「50 歳代」で30.2%となっています。

図27 B. 子どもの権利条約

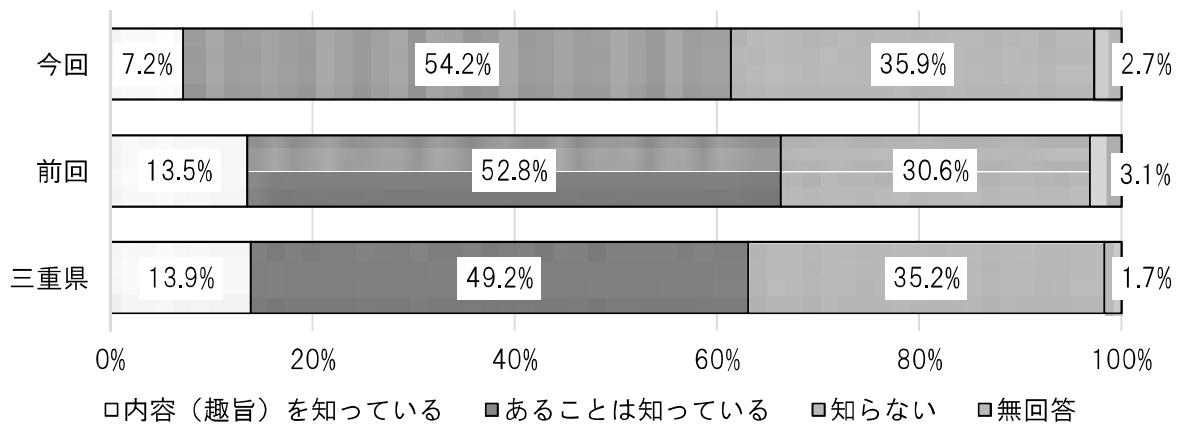


前回調査との比較では、「内容（趣旨）を知っている」で 5.0 ポイント低くなっています。

性別では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせると、「男性」で 57.5%、「女性」で 64.6%と、7.1 ポイントの差があります。「知らない」では、「男性」で 39.9%、「女性」で 32.6%と、7.3 ポイントの差があります。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「40 歳代」で 73.4%となっています。最も割合が低かったのは「80 歳以上」で 27.3 ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「50 歳代」で 44.8%となっています。

図 2 8 C. 人種差別撤廃条約



前回調査との比較では、「内容(趣旨)を知っている」で 6.3 ポイント低くなっています。一方、「知らない」では 5.3 ポイント高くなっています。

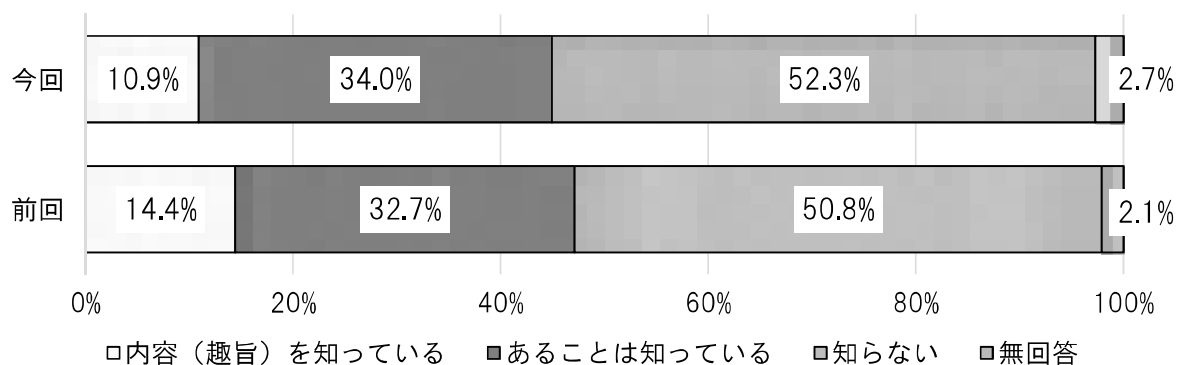
三重県との比較では、「内容(趣旨)を知っている」で 6.7 ポイント低く、「あることは知っている」では 5.0 ポイント高くなっています。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「内容(趣旨)を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「20 歳代」で 70.8%となっています。最も割合が低かったのは「80 歳以上」で 20.0 ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「50 歳代」で 41.4%となっています。

生育歴では、「内容(趣旨)を知っている」と「あることは知っている」を合わせると、「名張市内」で 65.7%、「名張市外」で 59.1%と、6.6 ポイントの差があります。「知らない」では、「名張市内」で 32.4%、「名張市外」で 38.0%と、5.6 ポイントの差があります。

図29 D. 水平社宣言



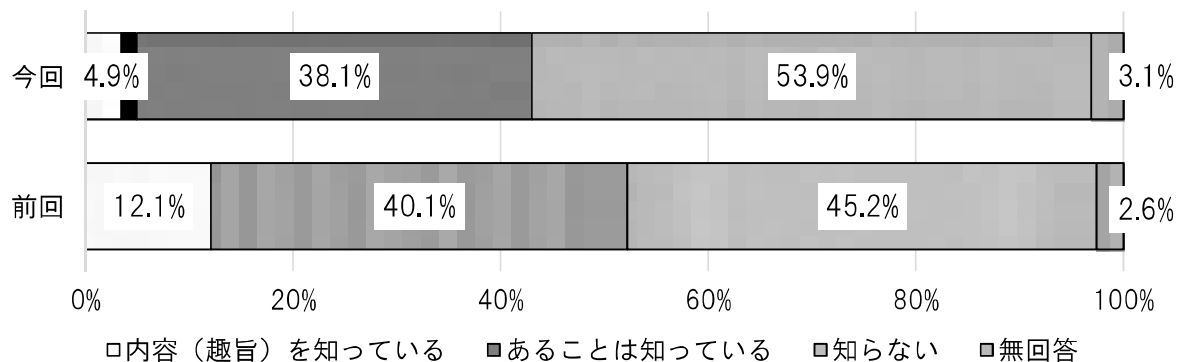
前回調査との比較では、大きな変化は見られません。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「20 歳代」で 70.9%となっています。最も割合が低かったのは「80 歳以上」で 40.7 ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「70 歳代」で 62.1%となっています。

生育歴では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせると、「名張市内」で 52.6%、「名張市外」で 40.9%と、11.7 ポイントの差があります。「知らない」では、「名張市内」で 45.4%、「名張市外」で 56.1%と、10.7 ポイントの差があります。

図30 E. 同和対策審議会答申



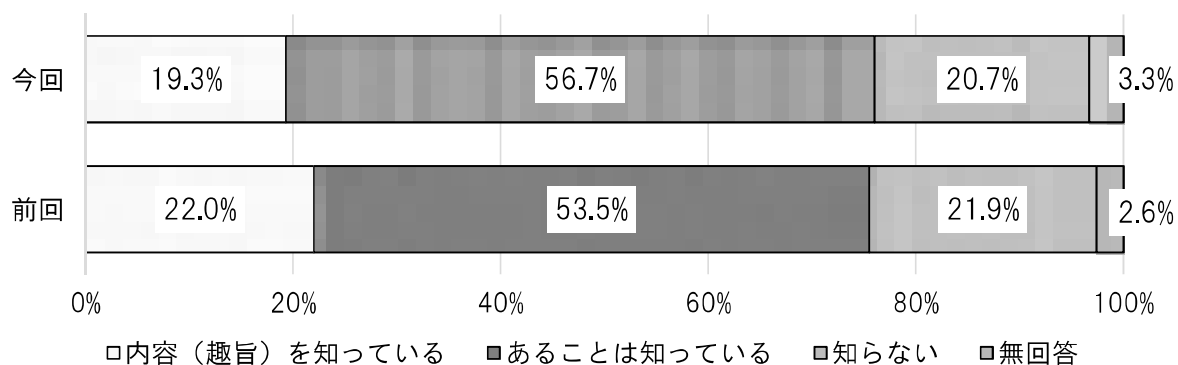
前回調査との比較では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせると9.2ポイント低くなっています。一方、「知らない」では8.7ポイント高くなっています。

性別では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせると、「男性」で46.4%、「女性」で40.7%と、5.7ポイントの差があります。「知らない」では、「男性」で51.0%、「女性」で56.4%と、5.4ポイントの差があります。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「60歳代」で51.0%となっています。最も割合が低かったのは「40歳代」で25.3ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「40歳代」で72.5%となっています。

生育歴では、「知らない」で、「名張市内」で57.2%、「名張市外」で52.2%と、5.0ポイントの差があります。

図3-1 F. 男女共同参画社会基本法

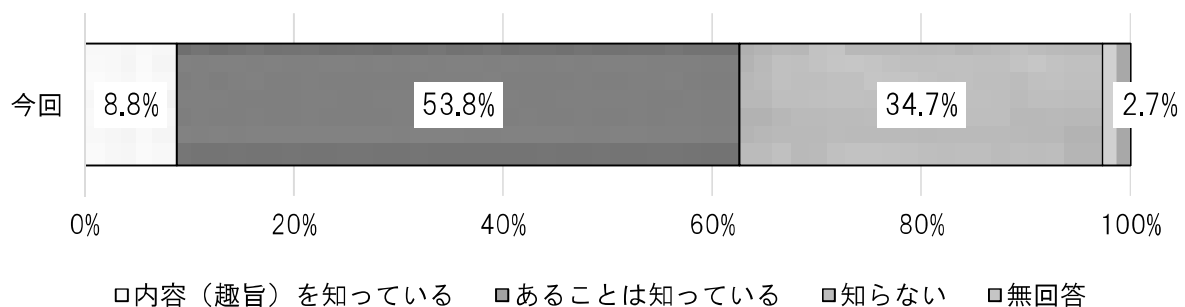


前回調査との比較では、大きな変化は見られません。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「20 歳代」で 83.4%となっています。最も割合が低かったのは「80 歳以上」で 20.7 ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「40 歳代」で 26.6%となっています。

図3-2 G. ハンセン病問題の解決の促進に関する法律



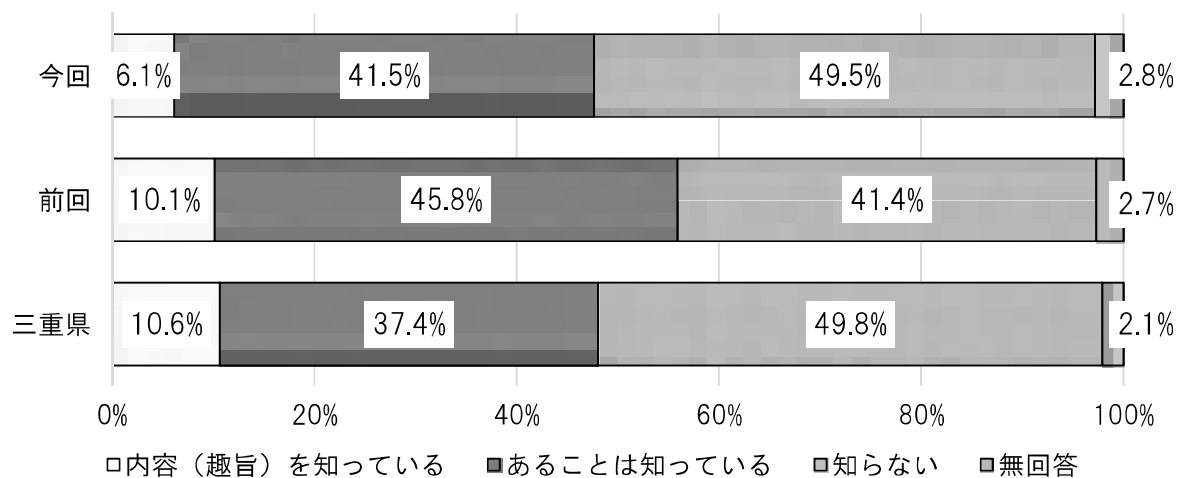
「G. ハンセン病問題の解決の促進に関する法律」では、「内容（趣旨）を知っている」で 8.8%、「あることは知っている」で 53.8%、「知らない」で 34.7%となっています。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「70 歳代」で 71.5%となっています。最も割合が低かったのは「40 歳代」で 23.8 ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「40 歳代」で 50.5%となっています。

生育歴では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせると、「名張市内」で 57.5%、「名張市外」で 65.6%と、8.1 ポイントの差があります。「知らない」では、「名張市内」で 39.9%、「名張市外」で 31.8%と、8.1 ポイントの差があります。

図3-3 H. 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（「障害者差別解消法」）

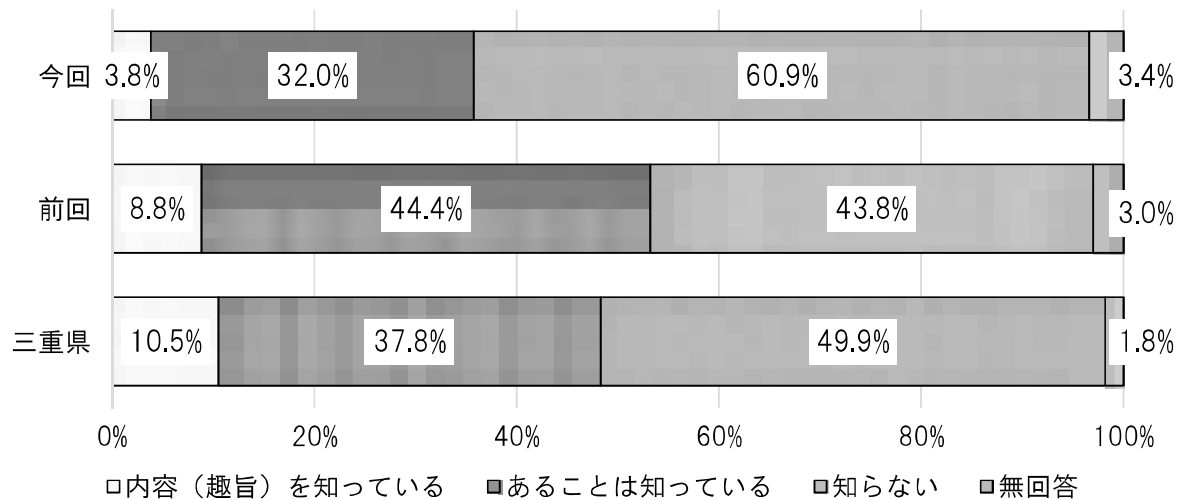


前回調査との比較では、「知らない」で8.1ポイント高くなっています。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「80歳以上」で52.3%となっています。最も割合が低かったのは「40歳代」で11.9ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「40歳代」で58.7%となっています。

図3-4 Ⅰ. 本邦外出身者に対する不当な差別的言動の解消に向けた取組の推進に関する法律（「ヘイトスピーチ解消法」）



前回調査との比較では、「内容（趣旨）を知っている」で 5.0 ポイント低くなっています。「あることは知っている」で 12.4 ポイント低くなっています。一方、「知らない」では 17.1 ポイント高くなっています。

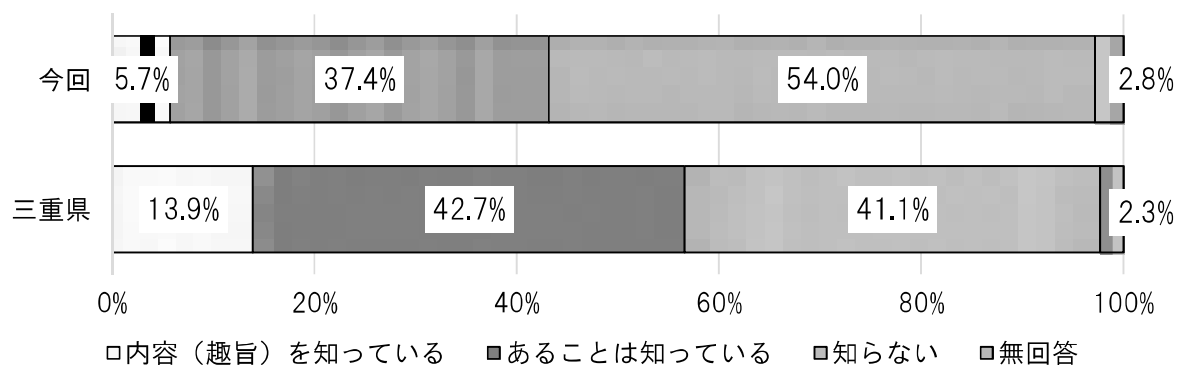
三重県との比較では、「内容（趣旨）を知っている」で 6.7 ポイント低くなっています。「あることは知っている」で 5.8 ポイント低くなっています。一方、「知らない」では 11.0 ポイント高くなっています。

性別では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせると、「男性」で 39.3%、「女性」で 33.1%と、6.2 ポイントの差があります。「知らない」では、「男性」で 57.8%、「女性」で 63.6%と、5.8 ポイントの差があります。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「70 歳代」で 41.1%となっています。最も割合が低かったのは「20 歳代」で 14.0 ポイントの差がある。「知らない」で最も割合が高かったのは「20 歳代」で 72.9%となっています。

生育歴では、「知らない」で、「名張市内」で 64.7%、「名張市外」で 58.9%と、5.8 ポイントの差があります。

図35 J. 部落差別の解消の推進に関する法律（部落差別解消推進法）

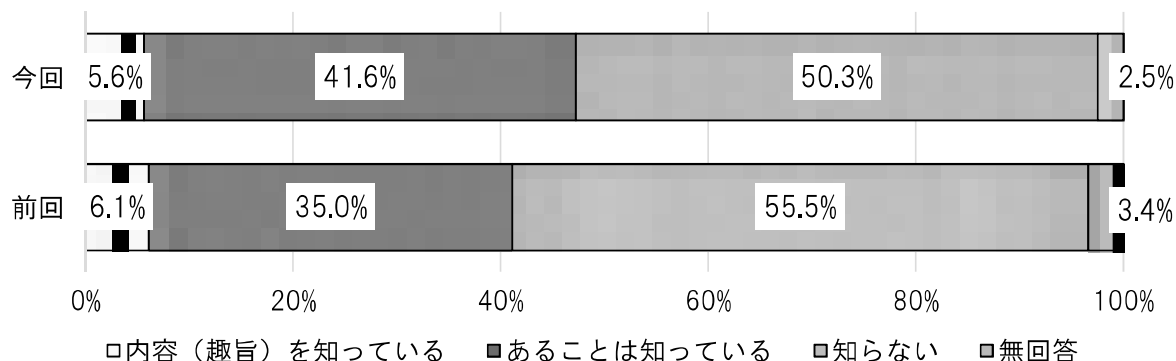


三重県との比較では、「内容（趣旨）を知っている」で8.2ポイント低くなっています。「あることは知っている」で5.3ポイント低くなっています。一方、「知らない」では12.9ポイント高くなっています。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「70歳以上」で48.6%となっています。最も割合が低かったのは「30歳代」で18.7ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「30歳代」で68.4%となっています。

図36 K. アイヌの人々の誇りが尊重される社会を実現するための施策の推進に関する法律（アイヌ施策推進法）



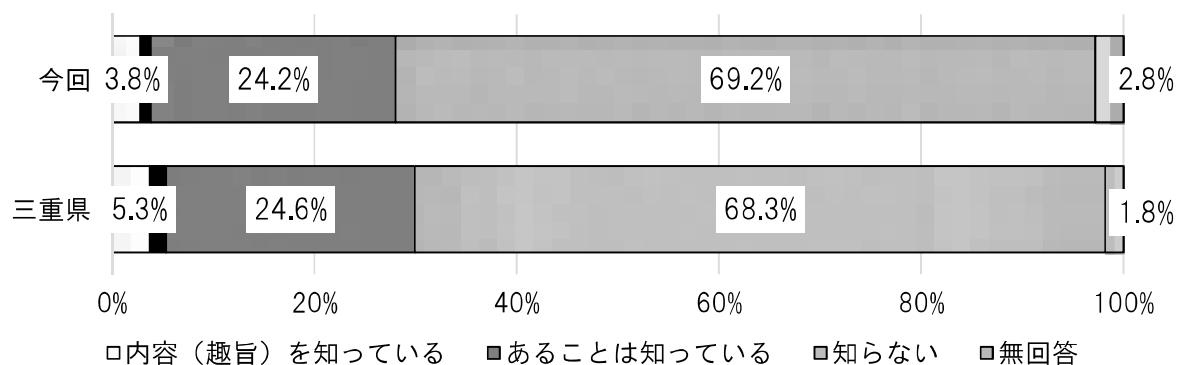
前回調査との比較では、「内容（趣旨）を知っている」では、大きな変化は見られません。「あることは知っている」で6.6ポイント高くなっています。一方、「知らない」では5.2ポイント低くなっています。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「70歳代」で55.3%となっています。最も割合が低かったのは「40歳代」で25.9ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「40歳代」で69.7%となっています。

生育歴では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせると、「名張市内」で42.1%、「名張市外」で50.1%と、8.0ポイントの差があります。「知らない」では、「名張市内」で55.9%、「名張市外」で47.3%と、8.6ポイントの差があります。

図3-7 L. 差別を解消し、人権が尊重される三重をつくる条例

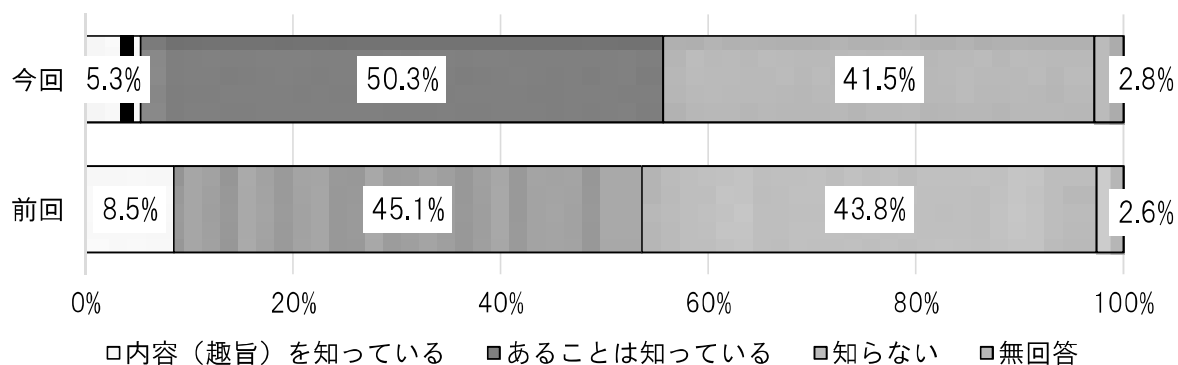


三重県との比較では、大きな差は見られません。

性別では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせると、「男性」で 25.1%、「女性」で 30.3%と、5.2 ポイントの差があります。「知らない」では、「男性」で 72.5%、「女性」で 66.9%と、5.6 ポイントの差があります。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「70 歳代」で 35.1%となっています。最も割合が低かったのは「20 歳代」で 14.3 ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「20 歳代」で 79.2%となっています。

図38 M. 名張市人権尊重都市宣言



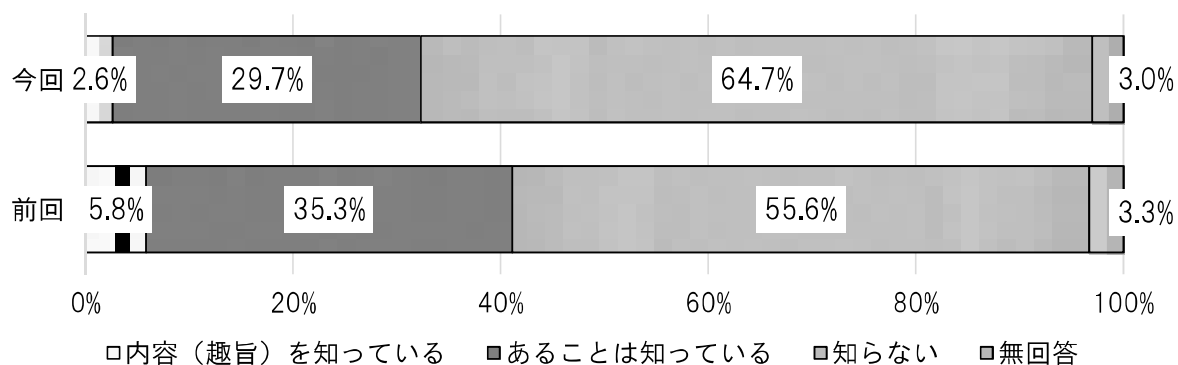
前回調査との比較では、「あることは知っている」で5.2ポイント高くなっています。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「内容(趣旨)を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「70歳代」で60.8%となっています。最も割合が低かったのは「20歳代」で17.1ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「20歳代」で56.3%となっています。

生育歴では、「内容(趣旨)を知っている」と「あることは知っている」を合わせると、「名張市内」で59.5%、「名張市外」で54.0%と、5.5ポイントの差があります。「知らない」では、「名張市内」で37.9%、「名張市外」で43.2%と、5.3ポイントの差があります。

図39 N. 名張市における部落差別をはじめあらゆる差別の撤廃に関する条例

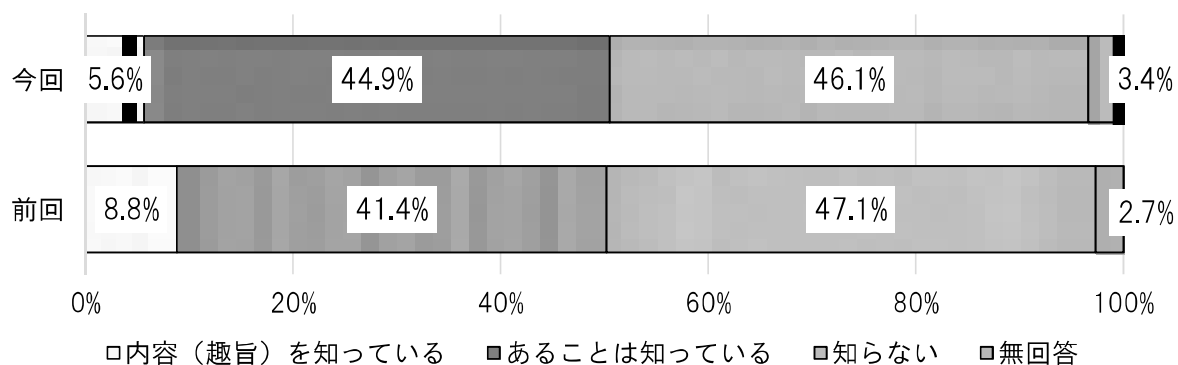


前回調査との比較では、「あることは知っている」で5.6ポイント低くなっています。一方、「知らない」では9.1ポイント高くなっています。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「80歳以上」で38.1%となっています。最も割合が低かったのは「20歳代」で17.2ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「20歳代」で77.1%となっています。

図4-0 O. 名張市男女共同参画推進条例

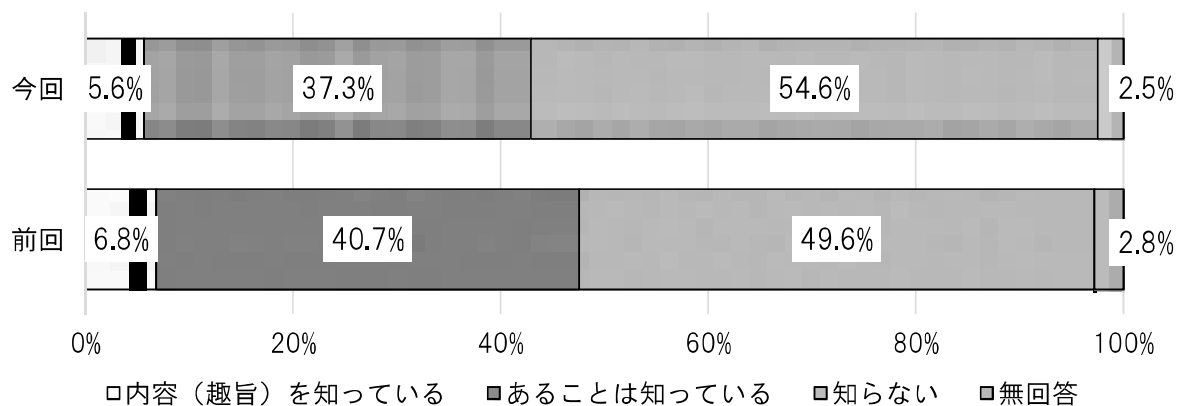


前回調査との比較では、大きな変化は見られません。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「内容(趣旨)を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「70 歳代」で 59.7%となっています。最も割合が低かったのは「30 歳代」で 28.1 ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「20 歳代」で 62.5%となっています。

図4-1 P. 名張市子ども条例

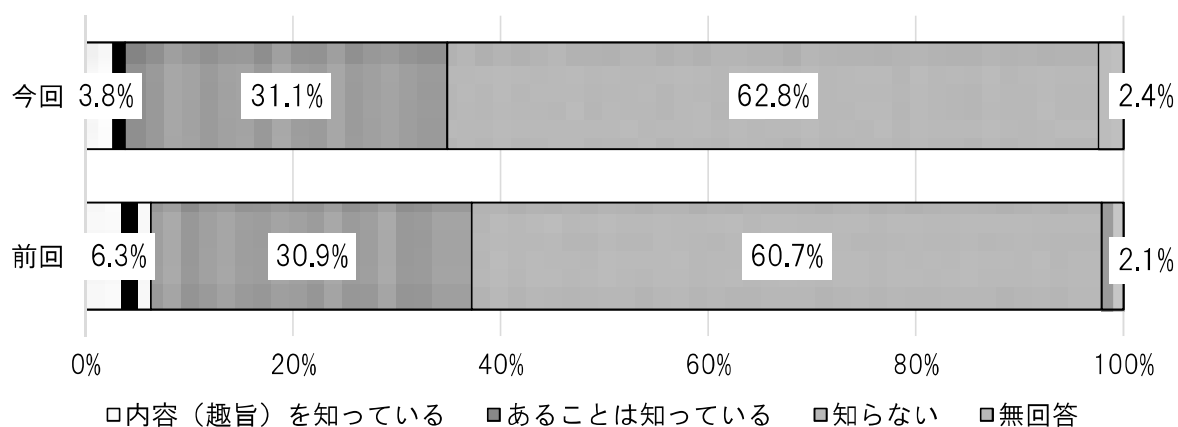


前回調査との比較では、「知らない」で5.0ポイント高くなっています。

性別では、大きな差は見られません。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「50歳代」で47.5%となっています。最も割合が低かったのは「80歳以上」で12.6ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「20歳代」で56.3%となっています。

図4-2 Q. 名張市障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちづくり条例

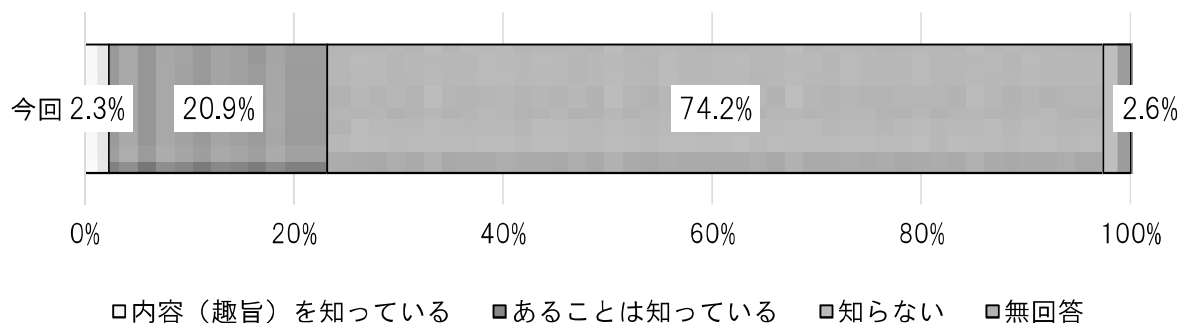


前回調査との比較では、大きな変化は見られません。

性別では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせると、「男性」で 31.1%、「女性」で 37.8%と、6.7 ポイントの差があります。「知らない」では、「男性」で 67.1%、「女性」で 59.9%と、7.2 ポイントの差があります。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「70 歳代」で 42.7%となっています。最も割合が低かったのは「30 歳代」で 18.1 ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「30 歳代」で 73.7%となっています。

図4-3 R.「性の多様性を認め合うまち・なばり」宣言に関する決議

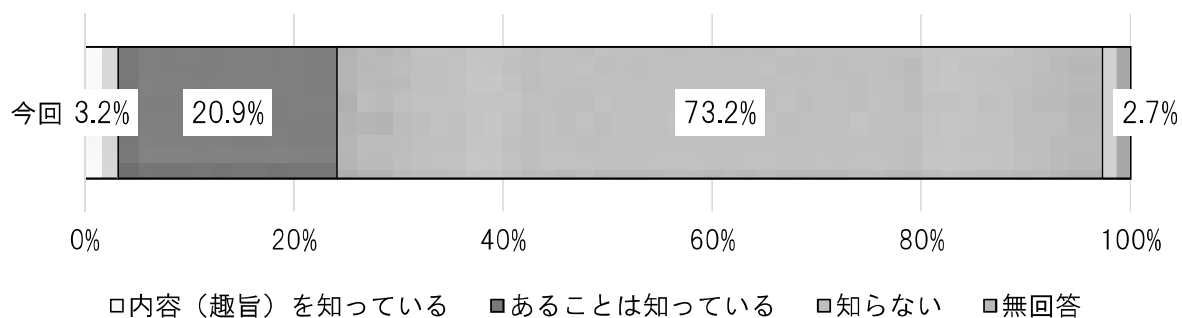


「R.『性の多様性を認め合うまち・なばり』宣言に関する決議」では、「内容（趣旨）を知っている」で2.3%、「あることは知っている」で20.9%、「知らない」で74.2%となっています。

性別では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせると、「男性」で19.9%、「女性」で25.6%と、5.7ポイントの差があります。「知らない」では、「男性」で77.7%、「女性」で72.1%と、5.6ポイントの差があります。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「80歳以上」で26.9%となっています。最も割合が低かったのは「30歳代」で12.8ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「30歳代」で84.2%となっています。

図4.4 S. 名張市ケアラー支援の推進に関する条例



「S. 名張市ケアラー支援の推進に関する条例」では、「内容（趣旨）を知っている」で 3.2%、「あることは知っている」で 20.9%、「知らない」で 73.2%となっています。

性別では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせると、「男性」で 19.1%、「女性」で 28.1%と、9.0 ポイントの差があります。「知らない」では、「男性」で 78.2%、「女性」で 69.6%と、8.6 ポイントの差があります。

年齢では、「内容（趣旨）を知っている」と「あることは知っている」を合わせて、最も割合が高かったのは「70 歳代」で 28.5%となっています。最も割合が低かったのは「40 歳代」で 11.9 ポイントの差があります。「知らない」で最も割合が高かったのは「40 歳代」で 82.6%となっています。

「人権」の基礎基本（問１～問４）

1948 年、国際連合（以下「国連」という）において当時の加盟国が賛成しつくられた「世界人権宣言（以下「宣言」という）」の第一条には、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利とについて平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない」と謳われている。

宣言の前文では、「人類社会のすべての構成員の固有の尊厳と平等で譲ることのできない権利とを承認することは、世界における自由、正義及び平和の基礎である」とされている。

そして「加盟国は、国際連合と協力して、人権及び基本的自由の普遍的な尊重及び遵守の促進を達成することを誓約した」とも謳われている。それぞれの国や地域の事情によって異なる人権があるのではなく、「世界共通の基準」として人権があり、「人権とは何か」を正しく認識する上で、宣言は、その手引きとなっている。宣言が採択されて以降、国際人権規約をはじめ、女性差別撤廃条約、人種差別撤廃条約、子どもの権利条約、障害者権利条約なども採択されてきた。

人権とは、漠然とした抽象的な「考え」ではなく、前述した国連で採択された人権関連条約や法律で規定され、具体的な個別の権利（婚姻の自由、表現の自由、居住移転の自由、集会結社の自由、移動の自由、教育を受ける権利、働く権利、社会保障を受ける権利、最低限の生活を送る権利等）の総称である。人権を保護し、人権が尊重されるための法律をつくることや、制度を設計することは国の義務であることが原則となっている。これらを前提とした場合、「道徳や倫理」、「思いやりや優しさ」で、温かく、住みやすい社会をつくろうとしても、人権が守られるとは限らないということである。日本においては、人権問題を「心の問題」に置き換えられ、それが広く浸透してしまっている。

図 10 では、「I. 思いやりや優しさをみんなが持てば、人権問題は解決する」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると 76.9%と 8 割近い結果となっており、市民に対して、「人権とは何か」「権利とは何か」について、正確に認識できる学習の機会を提供することが不十分であったことが結果となって表れている。前述した具体的な個別の権利を基準として考えた場合、「思いやりや優しさ」を他者に与えることができないがために、人権侵害が起きているわけではない。

例えば、健常者は、はじめて利用する公共施設が、バリアフリーかどうかを意識することは基本的でない。それは、健常者には、移動の制限を気にしなくても生活ができる法制度が生まれ持って努力しなくても整備されているため「移動することを努力したり、悩んだりしなくてもよい」からである。しかし、障害者には与えられない制度設計が未だ社会生活に存在しており、移動の自由が行使できず、行動が制限されている結果となっている。この現実から、「健常者の思いやりや優しさが足りないから、障害者が移動の自由を制限される」ということにはならない。

ここまでの考察からも、人権について規定している国際条約（以下「条約」という）や日本国憲法、法令の内容まで認識しなければ、「人権とは何か」を正確に捉えることはできない。

その上で、まず図 25 を見ると、「内容（趣旨）を知っている」で、最も高かったのは、「F. 男女共同参画社会基本法」で 19.3%と 2 割にも達していない。世界標準の人権が規定されている「A. 世界人権宣言」で、「内容（趣旨）を知っている」で 10.1%と 3 番目に高い割合となっているが、わずか 1 割となっており、他の条約や法令については、1 割にも達していない結果となっている。

また、それぞれの条約や法令では、市民に対して、努力義務が規定されているものもあるなかで、規定された内容を市民が認識できていない結果であるともいえる。法令に基づいた市民の行動に結びつい

ていない可能性は極めて高いと考えられ、名張市（以下「市」という）と市民が共通の基準に関する認識をもたないまま、人権が尊重される市民生活の実現はなし得ないといえる。

こうしたなかで図1を見ていくと、「名張市が人権尊重のまちになっているかどうか」について、「感じている」で8.6%、「ある程度感じている」で43.5%となっており、合わせて5割を超えているが、前述の世界標準の認識をもった回答がされているかを考えた場合、結果が低くなることが推測される。

図8では、「G. 誰もが自分の人権についてもっと学ぶ機会を持つべきだ」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると88.8%と、およそ9割となっている。市民のおよそ9割が、「人権についてもっと学ぶ機会を持つこと」について、肯定的な意識を有している結果を踏まえ、学校教育と連携し、①市内の小中学校において権利について学ぶ機会をつくること、②就学前においても学ぶ機会を保障すること、③保護者や市民に向けて人権とは何か、権利とは何かについて学ぶ機会をつくる必要がある。

宣言が採択されて以降、国連ではさまざまな条約が採択されてきたなかで、差別は「禁止するもの」ということがグローバルスタンダードとなっている。しかし、日本は先進国でありながら、「差別禁止法」をもたない国となっており、今も取組や啓発の主軸は「理解や認識を広げる」ことに終始している側面がある。このような取組や啓発だけでは、差別を防ぐことができず、差別が発生しても再発防止につながりにくく、また、マイノリティが権利を侵害され続けている構造に的確な対策・対応を取ることができない。そうしたなかにおいても、図3で「B. 差別は法律で禁止する必要がある」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると76.5%と、市民の差別に対する対処の一つに「禁止が必要」であるという認識の高さが表れており、積極的な取組を市民が後押ししているといえる。これは法律だけでなく、三重県のように条例で規定することができるという点において、市の既存の人権条例をより具体化し、国際・国内の動向にあわせた条例改正や既存の取組の強化、または新しい施策が必要であるという、差別事象等の立法事実を踏まえた取組が求められる。

図4では、「C. 差別だという訴えをいちいち取り上げていたらきりがない」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると47.3%と、およそ5割に及んでいる。

また、図7では、「F. 人権や権利ばかり主張して、他人の迷惑を考えない人が増えている」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると78.7%と、およそ8割に及んでおり、条例で三重県のように「何が差別にあたるのか、人権侵害にあたるのか」を定義することが求められる。

2023年度は、国内の大手タレント事務所や劇団、事業所等における人権侵害が深刻なかたちで発生していることが明るみになった。「人権」について正確に学ぶ機会のなかった人たちは被害を受けているながらも、それが権利侵害であることを認識できるまでに時間を要し、何よりも被害を訴える声があげられなかったことも明らかになった。「C. 差別だという訴えをいちいち取り上げていたらきりがない」という考え方は、被害者が不当性を訴えようとする動きに抑圧構造を働かせる危険性がある。

図5では、「D. 差別を受ける立場の人の言葉をきちんと聞くべきだ」について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると94.1%となっており、まずは社会におけるマジョリティが、被害者の声を聴くところからはじめていくことが重要である。

図11～14では、「部落差別（同和問題）」に関する項目となっている。部落差別（同和問題）についても、具体的な個別の権利の視点で整理された基準があり、1965年の「同和对策審議会答申（以下「答申」という）」が、それにあたる。

答申では、「近代社会における部落差別とは、ひとくちに言えば、市民的権利、自由の侵害にほかならない。市民的権利、自由とは、職業選択の自由、教育の機会均等を保障される権利、居住および移転の自由、結婚の自由などであり、これらの権利と自由が同和地区住民に対しては完全に保障されていないことが差別なのである。これらの市民的権利と自由のうち、職業選択の自由、すなわち就職の機会均等が完全に保障されていないことが特に重大である。」と定義されている。被差別当事者ではない人たちには、上記の権利が、「被差別当事者ではない」という理由で侵害されることは、まず起こり得ないが、被差別当事者はこれまで、上記の権利が侵害される差別が発生しており、答申は明確な権利の侵害であると指摘している。

また、図14のように「D. そっとしておけば、部落差別はそのうち自然になくなっていく」という考えが持ち込まれ、「寝た子を起こすな論」として、一定の影響力を有している。今回の調査では「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると35.0%に及んでいる。

答申をはじめとして、2000年に施行された、「人権教育・啓発の推進に関する法律」、あるいは2016年に施行された「部落差別の解消の推進に関する法律」、そして市の「部落差別をはじめあらゆる差別の撤廃に関する条例」は、教育や啓発、行政施策を展開することを通じて、部落差別を解消することが責務として規定されている。日本は法治国家であり、法令を遵守することが原則である。道路交通法を守ることと同義であり、「何もしなくていい」のではなく、差別を解消するための基準や根拠となる条約や法令にのっとり、問題解決への必要な施策を展開していくことが求められている。

歴史を遡れば、日本は「寝た子を起こすな」を結果的に実践してきた。1871年、太政官布告（いわゆる解放令）により江戸時代の身分制度に終止符が打たれ、誰もが平等な立場となった。

しかし、身分の平等は形だけのものであって、多くの人々の差別意識「まで」解消されることはなく、明治維新の動乱の中、「被差別の立場」に置かれた人たちに不当な扱いを「してきた」人たちへの差別意識を払拭するための取組や人権意識向上のための啓発は「約50年」もの間、実施されてこなかった。何も取組まなかった国の在り方により差別の厳しさが増していくことで、生存権すら脅かされる事態となった人々が、1922年「全国水平社」を創立し、差別のない社会の実現に向けた当事者運動を立ち上げさせた。差別を放置すれば、より厳しさを増すということを、これまでの歴史の中で体現している。

問3で、最も改善が見られた項目は、図19の「I. 子育て期間中は、母親が育児に専念するべきだ」で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、前回調査は43.1%、今回調査は29.2%と大きく改善されている。近年、マスメディアにおいても、ジェンダーギャップに関する報道などが行われる他、いわゆる男性の育児休暇の取得等、制度に関することが取り上げられる機会が増えたことが、改善された要因と考えられる。市における調査結果改善に向けた具体的な施策の展開が求められる。